

博士論文（要約）

『主婦の友』にみる日本型恋愛結婚イデオロギーの固有性と変容

大塚明子

目次

I. 序論	1
第1章. 問題設定：日本型恋愛結婚イデオロギーの固有性と変容	1
第1節. 日本型近代家族の発見	1
第2節. 日本型近代家族を巡る問い	4
第3節. 近代恋愛結婚イデオロギーとその下位類型	7
第4節. 問いと言説分析の枠組	9
(1) 価値としての近代恋愛結婚イデオロギー	10
(2) 内的な相互連関と外的な位置づけ	11
(3) 価値／規範という2水準	12
第2章. 欧米型近代家族とロマンティック・ラブ・イデオロギー	15
第1節. 従来 of 歴史的な規定が内包する問題	15
(1) 2つの文化的伝統：宮廷恋愛とピューリタニズム	15
(2) 情熱 (passion) と友愛 (companionship) の分裂	18
第2節. 個人主義とロマンティック・ラブ・イデオロギー	20
(1) 起点としての「神秘的な牽引力」	20
(2) 「真の自己」と親密なコミュニケーションの要請	22
(3) 結婚後の変化と連続性	25
(4) 小括：ピューリタンの友愛結婚に対する優位性	27
(5) 階層的な社交制度への組込みによる安定化	30
(6) 「男らしさ」との適合性	32
(7) 性の位置づけを巡る2類型：ヴィクトリア朝型と20世紀型	33
第3章. 日本型近代家族と「恋愛」「愛」の導入	37
第1節. 明治20年代：精神主義的な「恋愛」「愛」の導入	38
第2節. 明治末～大正期：性欲と「人格」の統合に向けて	41
第3節. 新しい結婚方法の模索	43
第4章. 『主婦の友』の時代区分と潮流	47
第1節. 『主婦の友』の創刊から婦人四誌の黄金期まで	47
(1) 前史：大正期の婦人雑誌界と創刊の経緯	47
(2) 戦前期：新中間層下部への焦点づけ	48
(3) 戦後～高度成長期：婦人四誌としての大衆化	50
第2節. 『主婦の友』の言説分析を巡る方法論上の問題	52
第3節. 目次タイトルからみた大きな時代潮流	54
(1) テーマの内訳	55
(2) 登場人物の類型	64

(3) 登場回数上位者.....	68
第4節. 対象とした記事の抽出と分析の方法.....	74
II. 戦前前期：日本型近代家族の浸透期.....	76
第5章. 〈国家社会〉と「愛」の理想.....	76
第1節. 戦前前期における社会的・思想的な位置：体制内のキリスト教.....	77
(1) 平等主義的な良妻賢母思想.....	78
(2) 至上価値としての〈国家社会〉.....	81
(3) 家族制度への批判と妥協.....	88
(4) 理想と現実の乖離～「愛」と「和合」の二重性～.....	90
(5) 2つの時代区分.....	91
第2節. 精神主義的な「愛」の理想～白村との比較を中心に～.....	94
(1) 「愛」の究極の理想～乃木夫妻の物語～.....	94
(2) 「正しき恋愛」対「恋愛／愛」の対極化.....	98
(3) 「個性」対「高潔な人格」.....	102
(4) 「小我」から「大我」へ.....	109
第6章. 結婚方法の改革とその限界.....	112
第1節. 「自由結婚」の否定.....	113
(1) 近代化の過渡期における無法地帯的状况.....	114
(2) 結婚調査の必要性.....	117
(3) 絶対的な純潔規範.....	119
第2節. 「愛」を組み込んだ新しい結婚方法の提唱.....	122
(1) 「真の恋愛」に基づく結婚.....	122
(2) 最善策としての家庭的グループ交際.....	126
(3) 次善策としての見合結婚の改革.....	128
第7章. 「愛」を巡る危機的状况と離婚観.....	132
第1節. 夫と妻の不貞の数的推移.....	132
第2節. 離婚の原則否定へ.....	133
第3節. 夫の不品行問題への解釈と対策.....	140
(1) 妻への第一義的な帰責.....	140
(2) 普遍主義的な「人格」を目指す action としての「愛」.....	142
(3) 『主婦の友』の保守性と合理性.....	148
第4節. 内面性の語りを巡って.....	149
(1) 内面性の関連語の出現率.....	149
(2) 夫の不品行に直面した妻の告白：田中法学士夫人の物語.....	153
(3) 夫への「愛」を巡る妻の自問.....	155
第8章. 夫婦「和合」の現実.....	162

第1節. 夫優位性の全肯定期.....	162
(1) 日本型近代家族の浸透期～「和合の秘訣」の時代～.....	162
(2) 主要な夫婦関係の関連語の数的推移：圧倒的な夫優位性.....	163
(3) 妻への「愛」と「浮気」の両立.....	170
(4) 「夫婦不和＝夫の不機嫌」という等値.....	173
(5) 夫優位性の様々な軽減戦略～「親子の比喻」を中心に～.....	176
(6) 「愛」を巡るコミュニケーションⅠ.....	178
第2節. 「愛」「和合」の基盤としての性.....	184
(1) 性をテーマとする記事の量的推移.....	184
(2) 性に対する両義的な評価.....	187
(3) 性における圧倒的な夫優位性～妻の不感症を巡って～.....	192
(4) 女性の性的な主体性の欠如.....	199
第3節. 戦前前期の総括.....	204
(1) 「幸福」の内実.....	204
(2) ロマンティック・ラブと「愛」の差異.....	211
Ⅲ. 戦時体制期～戦後期：〈国家社会〉から「幸福」への転換.....	214
第9章. 日本型近代家族の定着期と戦時体制.....	214
第1節. 国家主義と母性主義の強化.....	215
第2節. 「愛」を組み込んだ見合結婚の定着.....	217
第3節. 日本型近代家族の第一世代の夫婦関係.....	220
(1) 夫婦関係の平等化へ.....	220
(2) 夫からの緩和期～「ユーモアと人情」の時代～(1).....	222
(3) 「愛」を巡るコミュニケーションⅡ～「東西比較論」の時代(1)～.....	224
第4節. 夫優位性の枠内における性の解放と平等化の伸展.....	228
(1) 性の「楽」「喜」の肯定へ.....	229
(2) 不感症に関する男性責任説の上昇.....	230
(3) 性に関する夫からの緩和期.....	232
第10章. 過渡期としての戦後期.....	236
第1節. 敗戦は画期か否か?.....	236
(1) 「大正35年」としての戦後民主改革.....	237
(2) 「皇国」から「民主日本」「世界平和」への置き換え.....	239
(3) 〈国家社会〉から「幸福」への転換.....	240
第2節. 「恋愛」を基盤とした結婚方法への転換.....	243
(1) 官能的情熱としての「恋愛」の全肯定.....	244
(2) 見合結婚と恋愛結婚の並立時代へ.....	247
第3節. 離婚の原則肯定へ.....	251

(1) 雑誌としての中立姿勢への転換.....	252
(2) 「人格」から「人間」への過渡期.....	254
(3) 「幸福＝愛」の理念による正当化.....	257
第4節. 「恋愛」「愛」の距離縮小と結婚との分化(1)：夫の不品行を巡って.....	259
(1) 「愛」を巡る新たな難問.....	259
(2) 内面への探索の始まり.....	262
第5節. 「恋愛」「愛」の距離縮小と結婚との分化(2)：妻の不貞を巡って.....	265
(1) 「老いらくの恋」と「逢びき」.....	265
(2) 名作のヒロインたち.....	269
第6節. 「愛」と「和合」の二重性の解消.....	271
(1) 夫からの緩和期～「ユーモアと人情」の時代～(2).....	271
(2) 「愛」を巡るコミュニケーションⅢ～「東西比較論」の時代(2)～.....	274
(3) 外的な「和合」から内的な「幸福＝愛」の模索へ.....	278
第7節. 性の縮小期.....	280
(1) 性というテーマの量的な後退と質的な過渡期.....	280
(2) 性表現の解放と根強い夫優位性.....	283
(3) 性科学用語の導入と妻の主体性の萌芽.....	284
第8節. 戦時体制期～戦後期の総括.....	288
(1) 国家主義的イデオロギーと「夫からの緩和」.....	288
(2) 「幸福＝愛」の至上価値化とその諸帰結.....	290
IV. 高度成長期：セックスと「内面の探索」の時代.....	292
第11章. 高度成長期前期(1)：性の爆発.....	293
第1節. 「現代主婦」の誕生と第1次主婦論争.....	293
第2節. 男女平等の進展(1)：純潔規範に関する中立派への転換.....	296
第3節. 男女平等の進展(2)：妻からの要求期.....	300
第4節. 「セックスの時代」の始まり.....	302
(1) 全社会的な性の解放と『主婦の友』の方向転換.....	302
(2) 性的な平等と自由の拡大.....	303
(3) 不感症に関する男性責任説の強化.....	307
(4) 性に関する男女の対極化図式の揺らぎと再強化.....	310
(5) 「愛に生きる女」というアイデンティティ.....	314
第12章. 高度成長期前期(2)：「灰色の日常性」と「めくるめく非日常性」.....	320
第1節. 「妻の座」の相対化.....	320
第2節. 「愛」を巡るコミュニケーションⅣ～妻と夫のすれ違い～.....	323
(1) 夫の「サービス」という社会的合意.....	323
(2) 「同化」から「孤独」へ.....	327

第3節. 「灰色の日常性」	329
(1) 第1次主婦論争との共振.....	329
(2) 「幸福」とは何か?.....	331
第4節. 「女の告白半生記」	332
第5節. 「人妻のよろめき」を巡る4言説.....	334
(1) 「ホットな性愛」の告白手記.....	334
(2) 「日常性の受容」～亀井勝一郎「現代夫婦論」～.....	339
(3) 「クールな浮気」～「不貞の魅惑」～.....	343
(4) 「非日常性への跳躍」～瀬戸内晴美「私の姦通論」～.....	345
第13章. 高度成長期後期:「女の哀しさ」と「生きがい」	348
第1節. 「幸福」から「生きがい」へ.....	349
第2節. 「男らしさ／女らしさ」の再構築(1).....	352
(1) 「仕事に生きる男」と「尽くす女」	352
(2) 愛情表現を巡ってV～「尽くす妻」のアンビバレンス～.....	354
第3節. 「男らしさ／女らしさ」の再構築(2).....	356
(1) 性に対する女性の視線の優位化.....	356
(2) 性の自由の拡大を巡る綱引き.....	357
(3) 性に関する対極化図式の維持.....	359
第4節. 近代恋愛結婚イデオロギーの問い直し(1):「愛」+性／結婚の亀裂.....	361
(1) 離婚の増加と「一夫一婦制」の相対化.....	362
(2) 「女の告白半生記」の全盛期.....	365
(3) 「女の哀しさ」の心理解剖.....	366
第5節. 近代恋愛結婚イデオロギーの問い直し(2):「愛」／性／結婚の分離.....	368
(1) 「性＝本能」説の否定.....	368
(2) 「分離」派による「クールな浮気」の平等主義(1).....	370
(3) 「分離」派による「クールな浮気」の平等主義(2).....	373
(4) 「愛→性」派による再統合.....	375
第6節. 団地という場所.....	379
(1) 団地に対する視線の変容.....	379
(2) 団地の事件	381
第7節. 〈私〉の「生きがい」を探して.....	385
(1) 第3の道としての中断再就職型ライフコース.....	385
(2) 第3次主婦論争との比較.....	388
第8節. 高度成長期の総括.....	389
(1) 「愛」・性・結婚の関連を巡る内面の探索.....	389
(2) 「人間」対「女」から「女」対〈私〉へ.....	390

終章 結論と課題	393
第1節. 問いと分析の方法.....	393
第2節. 欧米のロマンティック・ラブ・イデオロギーの定義.....	394
第3節. 『主婦の友』における「恋愛」「愛」の固有性と変容.....	396
(1) 戦前～戦後民主改革期：〈国家社会〉の時代.....	396
(2) 1950～60年代：「幸福」の時代.....	399
第4節. 今後の課題	402
参考文献	405

本文

本博士論文は、平成 30 年度に日本学術振興会の研究成果公開促進費を得て（JSPS 科研費 課題番号:18HP5176）、以下の通り出版されたため、全文公表することができません。

大塚明子 『『主婦の友』にみる日本型恋愛結婚イデオロギー』、勁草書房、2018 年

ISBN : 9784326603152

参考文献

- 阿部次郎 1922→1954 『人格主義』、角川文庫
- 阿部謹也 1992→1999 『「世間」論序説～西洋中世の愛と人格』、朝日選書
- 赤川 学 1999 『セクシュアリティの歴史社会学』、勁草書房
- 秋枝簾子 2000 『「良妻賢母主義教育」の逸脱と回収』、奥田暁子編『女と男の時空 [日本女性史再考] ⑩近代 [下]』、藤原書店
- アクロス編集部編 1995 『ストリートファッション 1945-1995』、PARCO
- Allen, F. L. 1931→1957 *Only Yesterday : An Informal History of the Nineteen Twenties*, Harper & Row. =1993 (藤久ミネ訳) 『オンリー・イエスタデイ』、ちくま文庫
- Anderson, M. 1980 *Approaches to the History of the Western Family 1500-1914*, The MacMillan Press. =1988 (北本正章訳) 『家族の構造・機能・感情』、海鳴社
- 青井和夫 1974 「戦後日本の家族観の変遷」、青山道夫他編『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- 青井和夫監修 1981 『家族問題の社会学』、サイエンス社
- 荒川幾男 1989 『昭和思想史 暗く輝ける 1930年代』、朝日選書
- 有地 亨 1974 「明治民法と『家』の再編成」、青山道夫他編『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- 有地 亨 1977 『近代日本の家族観 明治篇』、弘文堂
- 有地 亨編 1989 『現代家族の機能障害とその対策』、ミネルヴァ書房
- Aries, P. 1960 *L'Enfant et la Vie Familiale sous l'Ancien Regime*, Editions du Seuil. =1980 (杉山光信・杉山恵美子訳) 『〈子供〉の誕生』、みすず書房
- 有賀喜左衛門 1970 『有賀喜左衛門著作集 IX 家と親分子分』、未来社
- 朝日新聞社編 1979→1997 『朝日新聞の記事にみる恋愛と結婚 [明治] [大正]』、朝日文庫
- 朝日新聞社編 1979→1998 『朝日新聞の記事にみる恋愛と結婚 [昭和]』、朝日文庫
- Badinter, E. 1980 *L'AMOUR EN PLUS : Histoire de l'amour maternel, XVIIe-XXe siecle.* =1998 (鈴木晶訳) 『母性という神話』、ちくま学芸文庫
- 坂西友秀 1999 『ジェンダーと『家』文化』、社会評論社
- Becker, H.S. 1963 *Outsiders : Studies in the Sociology of Deviance*, The Free Press. =1978 (村上直之訳) 『アウトサイダーズ』、新泉社
- Beigel, H. G. 1951 "ROMANTIC LOVE", *American Sociological Review*, 1.
- Bellah, R.N., Madsen, R., Sullivan, W.M., Swidler, A., Tipton, S.M. 1985 *HABITS OF THE HEART : Individualism and Commitment in American Life*, University of California Press. =1991 (島菌進・中村圭志訳) 『心の習慣 アメリカ個人主義のゆくえ』、みすず書房
- Benedict, R. 1946 *The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture*, Boston.

- =1967 (長谷川松治訳)『菊と刀』、社会思想社
- Bloch, R.H. 1991 *Medieval Misogyny and the Invention of Western Romantic Love*, University of Chicago Press.
- Burgess, E.W., Locke, H.J. 1945→1953 *THE FAMILY : FROM INSTITUTION TO COMPANIONSHIP [2nd edition]*, American Book Company.
- Capellanus, A. /Parry, J.J. 1941 *The Art of Courtly Love*, Columbia University Press, =1990 (野島秀勝訳)『宮廷風恋愛の技術』、法政大学出版局
- Christie, A. 1977 *An Autobiography*=1995 (乾信一郎訳)『アガサ・クリステイー自伝』、ハヤカワ文庫
- Dean, D.G. 1964 “ROMANTICISM AND EMOTIONAL MATURITY : A FURTHER EXPLORATION” , *Social Forces* , 42.
- Donzelot, J. 1977 *La Police des Familles*, les Editions De Minuit. =1991 (宇波彰訳)『家族に介入する社会』、新曜社
- Driscoll, R., Davis, K.E., Lipetz, M.E. 1972 “PARENTAL INTERFERENCE AND ROMANTIC LOVE : THE ROMEO AND JULIET EFFECT” , *Journal of Personality and Social Psychology*, 24.
- Dumont, L. 1983 *Essais sur l'individualisme—Une perspective anthropologique sur l'ideologie moderne*, Editions du Seuil. =1993 (渡辺公三・浅野房一訳)『個人主義再考～近代イデオロギーについての人類学的展望』、言叢社
- 江馬 務 1971『結婚の歴史』、雄山閣
- Engels, F. 1884 *Der Ursprung der Familie, des Privateigentums und des Staats*, Hottingen-Zurich. =1999 (土屋保男訳)『家族・私有財産・国家の起源』、新日本出版社
- 江刺昭子 1989「解説～愛と性の自由」、『愛と性の自由～『家』からの解放』、社会評論社
- Flandrin, J-L. 1981 *Le Sexe et l'Occident : Evolution des attitudes et des comportements*, Editions du Seuil. =1992 (宮原信訳)『性の歴史』、藤原書店
- Flori, J. 1955 *La chevalerie en France au Moyen Age*, Presses Universitaires de France. =1998 (新倉俊一訳)『中世フランスの騎士』、文庫クセジュ
- Friedan, B. 1963 *THE FEMININE MYSTIQUE*, =1965 (三浦富美子訳)『増補 新しい女性の創造』、大和書房
- 藤井淑禎 1994『純愛の精神誌～昭和三十年代の青春を読む～』、新潮選書
- 藤井淑禎 1999「純愛の系譜～昭和30年代という時代～」、青木保他編『近代日本文化論Ⅱ 愛と苦難』、岩波書店
- 深谷昌志 1998『良妻賢母主義の教育 増補版』、黎明書房
- 福島正夫編 1976『家族 政策と法 7 近代日本の家族観』、東京大学出版会
- 福島正夫編 1977『家族 政策と法 3 戦後日本家族の動向』、東京大学出版会
- 福島正夫編 1984『家族 政策と法 6 近代日本の家族政策と法』、東京大学出版会
- 福沢諭吉／中村敏子編 1999『福沢諭吉家族論集』、岩波文庫

- Furstenberg, F. F. Jr. 1966 “INDUSTRIALIZATION AND THE AMERICAN FAMILY : A LOOK BACKWARD”, *American Sociological Review*, 31.
- 布施晶子 1992 「いま、日本の家族は」、布施・玉水俊哲・庄司洋子編『現代家族のルネサンス』、青木書店
- 布施晶子 1993 『結婚と家族』、岩波書店
- 布施柑治 1963 『ある弁護士の生涯～布施辰治～』、岩波新書
- 現代用語の基礎知識編 2000 『20世紀に生まれたことば』、新潮 OH! 文庫
- Giddens, A. 1992 *The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies*, Polity Press. =1995 (松尾精文・松川昭子訳) 『親密性の変容～近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム～』、而立書房
- Goode, W. J. 1959 “THE THEORETICAL IMPORTANCE OF LOVE”, *American Sociological Review*, 24.
- Halberstam, D. 1993 *The Fifties*, The Amateurs Limited=1997 (金子宣子訳) 『ザ・フィフティーズ (上・下)』、新潮社
- Gordon, A. 2012 *Fabricating Consumers: The Sewing Machine in Modern Japan*, University of California Press. =2013 (大島かおり訳) 『ミシンと日本の近代～消費者の創出～』、みすず書房
- 橋川文三 1974 「日本知識人の思想と家」、『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- 橋爪大三郎 1993 『性空間論』、勁草書房
- 橋爪大三郎 1995 『性愛論』、岩波書店
- 濱名 篤 1999 「階層としての女中」、青木保他編『近代日本文化論 5 都市文化』、岩波書店
- 濱野成生 2002 「日本企業に見る家族主義の哀感」、濱野成生他編『日米映像文学にみる家族』、日本優良図書出版会・金星堂
- 浜崎 廣 1998 『雑誌の死に方 “生き物” としての雑誌、その生態学』、出版ニュース社
- 速水融・小嶋美代子 2004 『大正デモグラフィ～歴史人口学でみた狭間の時代～』、文春新書
- 林 郁 1972→1982 「主婦はまだ未解放である」、上野千鶴子編『主婦論争を読むⅡ』、勁草書房
- 樋口恵子 1987 『主婦が変わる時』、海竜社
- 廣嶋清志 1999 「結婚と出生の社会人口学」、目黒依子・渡辺秀樹編『講座社会学 2 家族』、東京大学出版会
- ひろたまさき 1990 「ライフサイクルの諸類型」、女性史総合研究会編『日本女性生活史 第4巻 近代』、東京大学出版会
- 掘場清子 1988 『青踏の時代』、岩波新書
- 掘場清子編 1991 『『青踏』女性解放論集』、岩波文庫
- 井手文子 1975 『『青踏』の女たち』、海燕書房
- 家永三郎 1974 「日本における『家』観念の系譜」、『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- 井ヶ田良治 1982 「明治民法と女性の権利」、女性誌総合研究会編『日本女性史第4巻 近代』、東京大学出版会

- 飯田哲也編 1986『都市化と家族の社会学』、ミネルヴァ書房
- 飯田哲也 1996『現代日本家族論』、学文社
- 飯塚信雄 1986a『男の家政学～なぜ〈女の家政〉になったか～』、朝日選書
- 飯塚信雄 1986b『ロココの時代～官能の18世紀』、新潮選書
- 今泉容子 1997『日本シネマの女たち』、ちくま新書
- 猪俣勝人 1974『世界映画名作全史 戦後編』、教養文庫
- 井上章一 1999『愛の空間』、角川書店
- 井上ひさし 1995『ベストセラーの戦後史1』、文藝春秋
- 井上忠司 1977『「世間体」の構造』、NHK出版
- 井上輝子 1980→1998『恋愛観と結婚観の系譜』、総合女性史研究会編『日本女性史論集4 婚姻と女性』、吉川弘文館
- 井上輝子・江原由美子編 1995『女性のデータブック 第2版』、有斐閣
- 色川大吉 1970→1997『明治の文化』、岩波書店
- 色川大吉 1990『昭和世相史』、小学館
- 諫山陽太郎 1994『家・愛・性 近代日本の家族思想』、勁草書房
- 石田あゆう 2006『ミッチー・ブーム』、文春新書
- 石原千秋 2007『百年前の私たち——雑書から見る男と女』、講談社
- 石垣綾子 1955→1982『主婦という第二職業論』、上野千鶴子編『主婦論争を読むI』、勁草書房
- 石川弘義 1981『欲望の戦後史』、太平出版社
- 石川実編 1997『現代家族の社会学～脱制度化時代のファミリー・スタディーズ』、有斐閣
- 伊藤勝彦 1992『愛の思想史 [新版]』、東信堂
- 伊藤雅子 1972→1982『主婦よ『幸せ』になるのはやめよう』、上野千鶴子編『主婦論争を読むII』、勁草書房
- 伊藤 整 1954→1974『女性に関する十二章』、中公文庫
- 伊藤 整 1958→1981『近代日本における『愛』の虚偽』、『近代日本人の発想の書形式 他四篇』、岩波文庫
- 伊藤孝夫 2000『大正デモクラシー期の方と社会』、京都大学学術出版会
- 岩掘容子 1995『明治中期欧化主義思想にみる主婦理想像の形成～『女学雑誌』の生活思想について～』、脇田晴子・S.B.ハンレー編『ジェンダーの日本史 下』、東京大学出版会
- 岩間夏樹 1995『戦後若者文化の光芒～団塊・新人類・団塊ジュニアの軌跡～』、日本経済新聞社
- 岩瀬 彰 2006『「月給百円」サラリーマン～戦前日本の「平和」な生活』、講談社現代新書
- 神島二郎 1961→1977『日本人の結婚観』、講談社学術文庫
- 神谷治美 2000『家族間葛藤とジェンダー』、富士谷あつ子他監修『ジェンダー学を学ぶ人のために』、世界思想社
- 神野由紀 1994『趣味の誕生 百貨店がつくったテイスト』、勁草書房

- 金田利子・杉浦一枝他編 1985『ゆれうごく家族～地域は子どもをどう支えるか～』、ミネルヴァ書房
- 金塚貞文 1996「消費社会のセクシュアリティ～女のオーガズムの『発見』～」、井上俊他編『セクシュアリティの社会学』、岩波書店
- 鹿野政直 1983『戦前・『家』の思想』、創文社
- 鹿野政直 1989『婦人・女性・おんな～女性史の問い～』、岩波新書
- 鹿野政直 1999『近代日本思想案内』、岩波文庫別冊14
- 加納実紀代 1996「母性主義とナショナリズム」、井上俊他編『現代社会学 19 〈家族〉の社会学』、岩波書店
- 神田道子 1974「主婦論争」、『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- 菅野聡美 2001『消費される恋愛論～大正知識人と性～』、青弓社
- 菅野聡美 2005『〈変態〉の時代』、講談社現代新書
- 柄谷行人 1980→1988『日本近代文学の起源』、講談社文芸文庫
- 鹿島 茂 1997『明日は舞踏会』、作品社
- カタログハウス編 1994→2002『大正時代の身の上相談』、ちくま文庫
- 河上徹太郎 1965『日本のアウトサイダー』、新潮社
- 川村邦光 1993『オトメの祈り 近代女性イメージの誕生』、紀伊国屋書店
- 川村邦光 1994『オトメの身体 女の近代とセクシュアリティ』、紀伊国屋書店
- 川村邦光 1996「“処女”の近代～封印された肉体～」、井上俊他編『セクシュアリティの社会学』、岩波書店
- 川村邦光 1996→2004『性家族の誕生』、ちくま学芸文庫
- 川本 彰 1973『近代文学に於ける『家』の構造～その社会学的考察～』、社会思想社
- 川本三郎 1994『映画の昭和雑貨店』、小学館
- 川本三郎 1999「小市民映画の『楽しいわが家』」、青木保他編『近代日本文化論 7 大衆文化とマスメディア』、岩波書店
- Kephart, W.M. 1967 “SOME CORRELATES OF ROMANTIC LOVE”, *Journal of Marriage and the Family*, August.
- Kern, S. 1992 *The Culture of Love: Victorians to Moderns*, Harvard University Press.
=1998ab (斎藤九一・青木健訳)『愛の文化史(上下)』、法政大学出版局
- Key, E. 1903 *Karleken Och Aktenskapet : LIFSLINHERI*, . =1997 (小野寺信・小野寺百合子訳)『[改訂版] 恋愛と結婚』、新評論
- 木元至 1985『雑誌で読む戦後史』、新潮選書
- 木本喜美子 1995『家族・ジェンダー・企業社会』、ミネルヴァ書房
- 木村涼子 1992「婦人雑誌の情報空間と女性大衆読者層の成立～近代日本における主婦役割の形成との関連で～」、『思想』、2月号 (No. 812)
- 近代女性文化史研究会編 1989『婦人雑誌の夜明け』、大空社

- 近代女性文化史研究会編 1996『大正期の女性雑誌』、大空社
- 北村透谷 1892→1973a「厭世詩家と女性」、笹淵友一編『明治文学全集 32 女學雑誌・文學界全集』、筑摩書房
- 北村透谷 1892→1973b「処女の純潔を論ず」、笹淵友一編『明治文学全集 32 女學雑誌・文學界全集』、筑摩書房
- 工藤庸子 1998『フランス恋愛小説論』、岩波新書
- 厨川白村 1921→1925「近代の恋愛観」、『厨川白村集 第五卷』、厨川白村集刊行会
- 高度成長期を考える会編 1985『高度成長と日本人 PART1 個人編』、日本エディタースクール出版部
- 高度成長期を考える会編 1985『高度成長と日本人 PART2 家庭編』、日本エディタースクール出版部
- Kolb, Wi. L. 1950 “FAMILY SOCIOLOGY, MARRIAGE EDUCATION, AND THE ROMANTIC COMPLEX:A CRITIQUE”, *Social Forces*, 29.
- 近藤和子 2000「女と戦争」、奥田暁子編『女と男の時空 [日本女性史再考] ⑩近代 [下]』、藤原書店
- 香内信子編 1984『資料 母性保護論争』、ドメス出版
- 小山静子 1991『良妻賢母という規範』、勁草書房
- 小山静子 1999『家庭の生成と女性の国民化』、勁草書房
- 小谷野敦 1995『夏目漱石を江戸から読む』、中公新書
- 小谷野敦 1997『〈男の恋〉の文学史』、朝日選書
- 小谷野敦 1999a「ロマンティック・ラブとは何か」、『近代日本文化論 11 愛と苦難』、岩波書店
- 小谷野敦 1999b『江戸幻想批判』、新曜社
- 小谷野敦 2005『恋愛の昭和史』、文藝春秋
- 久野収・鶴見俊輔 1956『現代日本の思想～その5つの渦～』、岩波新書
- 倉田喜弘 2006『日本レコード文化史』、岩波書店
- 黒岩涙香 1898→1992『弊風一斑 蓄妾の実例』、教養文庫
- 黒澤亜里子 1995「近代日本文学における《両性の相克》問題」、脇田晴子・S.B. ハンレー編『ジェンダーの日本史 下』、東京大学出版会
- Lantz, H.R., Schmitt, R., Britton, M., Snyder, E.C. 1968 “PRE-INDUSTRIAL PATTERNS IN THE COLONIAL FAMILY IN AMERICA :A CONTENT ANALYSIS OF COLONIAL MAGAZINES”, *American Sociological Review*, 33.
- Lantz, H. R. 1982 “ROMANTIC LOVE IN THE PRE-MODERN PERIOD:A SOCIOLOGICAL COMMENTARY”, *Journal of Social History*, 15 (3) .
- Laslett, P. 1985 *The Traditional European Household*, =1992 (酒田利夫・奥田伸子訳) 『ヨーロッパの伝統的家族と世帯』、リブレポート
- Lebrun, F. 1975 *LA VIE CONJUGALE SOUS L' ANCIEN REGIME*, Armand Colin Publisher. =2001 (藤田苑子訳) 『アンシアン・レジーム期の結婚生活』、慶応義塾大学出版会

- Lovejoy, A. O. 1948 *Essays in the History of Ideas*, The Johns Hopkins Press, Baltimore.
=2003 (鈴木信雄他訳) 『観念の歴史』、名古屋大学出版会
- Luhmann, N. *Liebe als Passion*, Suhrkamp Verlag. =1986 (Gaines, J., Jones, D.L. trans.)
Love as Passion, Polity Press. / =2005 (佐藤勉・村中知子訳) 『情熱としての愛～親密さの
コード化』、木鐸社
- Lynd, R.S., Lynd, H.M. 1929 *Middletown : a study in contemporary American culture*,
Harcour, Brace. =1990 (中村八朗訳) 『現代社会学大系 9 ミッドルタウン』、青木書店
- Lystra, K. 1989 *Searching the Heart: Women, Men, and Romantic Love in Nineteenth-
century America*, Oxford University Press.
- 前田 愛 1973=1993 『近代読者の成立』、岩波書店
- 正岡寛司・藤見純子・嶋崎尚子 1999 「戦後日本におけるライフコースの持続と変化」、目黒依
子・渡辺秀樹編 『講座社会学 2 家族』、東京大学出版会
- 目黒依子 1993 「ジェンダーと家族変動」、森岡清美監修 『家族社会学の展開』、培風館
- 目黒依子 1999 「総論 日本の家族の『近代性』」、目黒依子・渡辺秀樹編 『講座社会学 2 家族』、
東京大学出版会
- Millet, K. 1970 *Sexual Politics*, Doubleday & Company Inc. =1985 (藤枝滯子他共訳) 『性
の政治学』、ドメス出版
- 南 博編 1982 『日本モダニズムの研究』、ブレーン出版
- 南博+社会心理研究所 1965 『大正文化 1905--1927』、勁草書房
- 南博+社会心理研究所 1987 『昭和 culture 1925 --1945』、勁草書房
- 南博+社会心理研究所 1990 『続昭和 culture 1945 --1989』、勁草書房
- 三田村鳶魚 1940→1998 「武家の婚姻」、朝倉治彦編 『鳶魚江戸文庫 25 お大名の話・武家の婚
姻』、中公文庫
- 三ツ星堅三 1993 『イギリス文学史概説』、創元社
- みつとみ俊郎 1987 『メロディ日本人論』、新潮選書
- 三浦 展 1999 『『家族』と『幸福』の戦後史』、講談社現代新書
- 宮坂靖子 1990 「『お産』の社会史」、中内敏夫編 『叢書産む・育てる・教える 1 教育～誕生と
終焉～』、藤原書店
- 宮台真司・石原英樹・大塚明子 1993 『サブカルチャー神話解体』、バルコ出版
- 水田宗子編 1990 『女性と家族の変容』、学陽書房
- 水田珠枝 1974 「産業革命と家族観」、『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- Morali-Daninos 1963 *Histoire des Relations sexuelles*, Collection QUE SAIS-JE?. =1966
(篠沢秀夫訳) 『性関係の歴史』、文庫クセジュ
- Morin, E. 1972 *LES STARS*, Editions du Seuil. =1976 (渡辺淳・山崎正巳訳) 『スター』、法
政大学出版局
- 諸井 薫 1990→2002 「『恐妻』について」、中公新書ラクレ編集部編 『夫と妻のための新・専業

主婦論争』、中公新書

Morris, D. 1971 *Intimate Behavior*, Jonathan Cape Ltd. =1993 (石川弘義訳) 『ふれあい～愛のコミュニケーション～』、平凡社ライブラリー

Mosse, G.L. 1988 *Nationalism and Sexuality: Middle-Class Morality and Sexual Norms in Modern Europe*, University of Wisconsin Press. =1996 (佐藤卓己・佐藤八寿子訳) 『ナショナリズムとセクシュアリティ』、柏書房

牟田和恵 1993 「愛・性・結婚～男と女をめぐる文化～」、井上俊編『現代文化を学ぶ人のために』、世界思想社

牟田和恵 1996a 「セクシュアリティの編成と近代国家」、井上俊他編『現代社会学 10 セクシュアリティの社会学』、岩波書店

牟田和恵 1996b 『戦略としての家族』、新曜社

牟田和恵 1996c 「日本型近代家族の成立と陥穽」、井上俊他編『現代社会学 19 〈家族〉の社会学』、岩波書店

牟田和恵 2000 『『良妻賢母』思想の表裏～近代日本の家庭文化とフェミニズム～』、青木保他編『近代日本文化論 8 女の文化』、岩波書店

永嶺重敏 1997 『雑誌と読者の近代』、日本エディタースクール出版部

永嶺重敏 2001 『モダン都市の読書空間』、日本エディタースクール出版部

長山靖生 1998 『「吾輩は猫である」の謎』、文藝春秋

中川 清 1985 『日本の都市下層』、勁草書房

中川 清 2000 『日本都市の生活変動』、勁草書房

中野 卓 1968 『家と同族団の理論～『商家同族団の研究』より～』、未来社

中村 元 1989 『中村元選集第3巻 日本人の思惟方法』、春秋社

中村隆文 2006 『男女交際進化論 「情交」か「肉交」か』、集英社新書

中蔦邦監修 1994 『『日本の婦人雑誌』解説編』、大空社

成田龍一 1990 「衛生環境の変化のなかの女性と女性観」、女性史総合研究会編『日本女性生活史 第4巻 近代』、東京大学出版会

成田龍一 1994 「性の跳梁～1920年代のセクシュアリティ」、脇田晴子・S.B. ハンレー編『ジェンダーの日本史 上』、東京大学出版会

NHK 放送文化研究所 1998 『現代日本人の意識構造 [第四版]』、NHK ブックス

日本家族心理学会編 1996 『家族心理学年報 14 21世紀の家族像』、金子書房

日本近代文学館編 1982 『復刻 日本の雑誌 解説』、講談社

西川佑子 1990 「住まいの変遷と『家庭』の成立」、女性史総合研究会編『日本女性生活史 第4巻 近代』、東京大学出版会

西川佑子 1995 「男の家、女の家、性別のない部屋～続住まいの変遷と『家庭』の成立～」、脇田晴子・S.B. ハンレー編『ジェンダーの日本史 下』、東京大学出版会

西川佑子 1996 「近代国家と家族～日本型近代家族の場合～」、井上俊他編『現代社会学 19 〈家

- 族)の社会学』、岩波書店
- 西川佑子 2000『近代国家と家族モデル』、吉川弘文館
- ニッセイ基礎研究所 1994『日本の家族はどう変わったのか』、NHK 出版
- ネスコ編 1997『お悩み相談』、ネスコ・文藝春秋
- 野辺地清江 1979『『女学生』・『白表女学雑誌』論～『女学雑誌』の流れの中に見た～』、『文学』、vol. 47、岩波書店
- 野々山久也・袖井孝子他編 1996『いま家族に何が起きているのか～家族社会学のパラダイム変換をめぐる～』、ミネルヴァ書房
- 落合恵美子 1989『近代家族とフェミニズム』、勁草書房
- 落合恵美子 1990「ビジュアル・イメージとしての女～戦後女性雑誌が見せる性役割～」、『女性史総合研究会編『日本女性生活史 第5巻 現代』、東京大学出版会
- 落合恵美子 1994『21世紀家族へ』、有斐閣
- 落合恵美子 1996「近代家族をめぐる言説」、井上俊他編『現代社会学 19 〈家族)の社会学』、岩波書店
- 落合恵美子 2003「個人の観点からの家族史」、河合隼雄編著『「個人」の探求～日本文化のなかで～』、NHK 出版
- 荻野美穂 1994『生殖の政治学』、山川出版社
- 小倉千加子 2004『『赤毛のアン』の秘密』、岩波書店
- 小倉孝誠 1999『〈女らしさ〉はどう作られたのか』、法蔵館
- 小倉利丸 1998「性の商品化」、近藤和子編『近代を読みかえる2 性幻想を語る』、三一書房
- 大橋照枝 1993『未婚化の社会学』、NHK ブックス
- 岡 満男 1981『婦人雑誌ジャーナリズム』、現代ジャーナリズム出版会
- 奥田暁子 2000「女中の歴史」、奥田暁子編『女と男の時空 [日本女性史再考] ⑩近代 [下]』、藤原書店
- 尾中文哉 1991「戦前期における女性と試験～『結婚』のメリトクラシーについて～』、『ソシオロギス』、No. 15
- 小野秀生 1995「戦後日本社会と家族の変貌」、光信隆夫・清水民子他編『家族は進化するか～福祉社会 日本の条件～』、法律文化社
- 小野高裕・西村美香・明尾圭造 2000『モダニズム出版社の光芒～プラトン社の1920年代～』、淡交社
- 折井美耶子・岩井サチコ 1990「戦争と女の日常生活1937～45年」、女性史総合研究会編『日本女性生活史 第4巻 近代』、東京大学出版会
- 大塚明子 1994『『主婦の友』にみる『日本型近代家族』の変動I～夫婦関係を中心に～』、『ソシオロギス』、17号
- 大塚明子 1996『戦前期の『主婦の友』における母の役割と子供観』、『文教大学女子短期大学部紀要』、第40集

- 大塚明子 2001「近代家族とロマンティック・ラブ・イデオロギーの2類型」、『文教大学女子短期大学部紀要』、第45集
- 大塚明子 2002「戦前期の『主婦の友』にみる『愛』と結婚」、『文教大学女子短期大学部紀要』、第46集
- 尾崎秀樹・宗武朝子 1979『雑誌の時代～その興亡のドラマ～』、主婦の友社
- Parsons, T. 1949→1954 *ESSAYS IN SOCIOLOGICAL THEORY*, Free Press.
- Parsons, T. 1949→1959 “The Social Structure of the Family”, Anshen R.N. ed. *THE FAMILY : ITS FUNTION AND DESTINY*, Harper & Brothers.
- Parsons, T., Bales, R.F. 1956 *Family : Socialization and Interaction Process*, Routledge & Kegan Paul. =2001 (橋爪貞雄他訳)『家族』、黎明書房
- Rose, J. 1992 *Marie Stopes and the Sexual Revolution*, Faber & Faber . =2005 (上村哲彦・立本秀洋・松田正貴訳)『性の革命～マリー・ストープス伝～』、関西大学出版部
- Rosenblatt, P.C. 1966 “A CROSS-CULTURAL STYDY OF CHILD REARING AND ROMANTIC LOVE”, *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol. 4, No. 3, 336-338.
- Rougemont, D. de 1949→1959 “The Crisis of the Modern Couple”, Anshen R.N. ed. *THE FAMILY : ITS FUNTION AND DESTINY*, Harper & Brothers.
- Rougemont, D. de 1956 *L'AMOUR ET L'OCCIDENT*, PLON. =1993 (鈴木健太・川村克己訳)『愛について(上・下)』、平凡社
- 歴史学研究会編 1990『日本同時代史4 高度成長の時代』、青木書店
- Rubin, Z. 1970 “MEASUREMENT OF ROMANTIC LOVE”, *Journal of Personality and Sochial Psychology*, 16 (2) .
- 佐伯順子 1992「結婚と女性」、山折哲雄編『日本における女性』、名著刊行会
- 佐伯順子 1996『『恋愛』の前近代・近代・脱近代』、井上俊他編『セクシュアリティの社会学』、岩波書店
- 佐伯順子 1998『『色』と『愛』の比較文化史』、岩波書店
- 斎藤 修 1985『プロト工業化の時代』、日本評論社
- 斎藤修編著・ピーター・ラスレット他著 1988『家族と人口の歴史社会学～ケンブリッジ・グループの成果～』、リプロポート
- 斎藤茂男 1982『妻たちの思秋期』、共同通信社
- 堺 利彦 1901～1902『家庭の新風味』→1979『新家庭論』、講談社学術文庫
- 坂田 穰 1987「生活様式～モダンライフから『自力生存』へ～」、南博編『昭和文化 1925 - 1945』、勁草書房
- 坂本桂鶴恵 1997『〈家族〉イメージの誕生～日本映画にみる〈ホームドラマ〉の形成～』、新曜社
- 笹淵友一・隅谷三喜男・太田愛人 1979「座談会 明治三十年代のキリスト教と文学」、『文学』, vol. 47、岩波書店
- 佐藤、バーバラ・ハミル 1986「婦人雑誌に現れた恋愛観」、南博編『近代庶民生活誌第九巻 解

- 説・総説』、三一書房
- 佐藤、バーバラ・ハミル 1987「女性」、南博編『昭和 문화 1925 --1945』、勁草書房
- 佐藤健志 2001『未来喪失』、東洋経済新報社
- 佐藤卓己 2002『『キング』の時代』、岩波書店
- 佐藤卓己 2003「戦後世論の古層～お盆ラジオと玉音神話～」、佐藤卓己編『戦後世論のメディア社会学』、柏書房
- 佐藤忠男 1995a～d『日本映画史』1～4、岩波書店
- 佐藤忠男 1996「映画のなかの日本とアジア」、井上俊他編『現代社会学 23 日本文化の社会学』、岩波書店
- 佐藤(佐久間)りか 2000「写真と女性」、奥田暁子編『女と男の時空 [日本女性史再考] ⑨近代 [上]』、藤原書店
- 沢山美果子 1990「子育てにおける男と女」、女性史総合研究会編『日本女性生活史 第4巻 近代』、東京大学出版会
- 瀬地山角 1996「主婦の比較社会学」、井上俊他編『現代社会学 19 〈家族〉の社会学』、岩波書店
- 瀬川清子 1957→2006『婚姻覚書』、講談社学術文庫
- Seidman, S. 1991 *Romantic Longings : Love in America 1830-1980*, Routledge. =1995 (椎野信雄訳)『アメリカ人の愛し方～エロスとロマンス～』、勁草書房
- 盛山和夫 1993「『核家族化』の日本的意味」、盛山和夫・間々田孝夫編『日本社会の新潮流』、東京大学出版会
- 盛山和夫 2000「ジェンダーと社会階層」、盛山和夫編『日本の階層システム(4)』、東京大学出版会
- 芹野陽一編 1997『〈家族〉からの離脱』、社会評論社
- 清水慶子 1955→1982「主婦の時代は始まった」、上野千鶴子編『主婦論争を読む I』、勁草書房
- 清水美知子 2000『『女中』イメージの変遷』、青木保他編『近代日本文化論 8 女の文化』、岩波書店
- 篠塚英子 1995『20世紀の日本 8 女性と家族』、
- 塩澤実信 1994『雑誌100年の歩み 1874-1990』、グリーンアロー出版社
- Shorter, E. 1975 *The Making of the Modern Family*, Basic Books. =1987 (田中俊宏・岩橋誠一・見崎恵子・作道潤訳)『近代家族の形成』、昭和堂
- 主婦の友社 1967『主婦の友社の五十年』、主婦の友社
- Simmel, G. 1917 *Grundlagen der Soziologie: Individuum und Gesellschaft*, Sammlung Goschen, Berlin und Leipzig, Walter de Gruyter. =1979 (清水幾太郎訳)『社会学の根本問題』、岩波文庫
- Simmons, C.H., Kolke, A., Shimizu, H. 1986 “ATTITUDE TOWARD ROMANTIC LOVE AMONG AMERICAN, GERMAN, AND JAPANESE STUDENTS”, *Journal of Social Psychology*, 126.

- Singer, I. 1994 *The Pursuit of Love*, The Johns Hopkins University Press. =1997 (工藤政司訳)『愛の探求』、法政大学出版局
- 袖井孝子 1985『家族・第三の転換期』、亜紀書房
- 惣郷正明 1988『日本語開化物語』、朝日選書
- 園田英弘 1999「近代日本の文化と中流階級」、青木保他編『近代日本文化論 5 都市文化』、岩波書店
- 外崎光廣 1956→1998「近代日本における離婚法の変遷と女性の地位(抄)」、総合女性史研究会編『日本女性史論集 4 婚姻と女性』、吉川弘文館
- Spaulding, C. B. 1970 “THE ROMANTIC LOVE COMPLEX IN AMERICAN CULTURE”, *Sociology and Social Research*, 55 (1) .
- Stark, W. 1953 “PEASANT SOCIETY AND THE ORIGINS OF ROMANTIC LOVE”, *Sociological Review*, 1 (2) .
- Stone, L. 1979 *The Family, Sex and Marriage in England, 1500-1800. Abridged edition*, Penguin Books. =1991 (北本正章訳)『家族・性・結婚の社会史 1500--1800年のイギリス』、勁草書房
- 陶 智子 1998『江戸の女性～嫁・結婚・食事・占い～』、新典社
- 杉井六郎 1979「熊本バンド・同志社と文学」、『文学』、vo. 47、岩波書店
- 水牛くらぶ編 1990『モノ誕生『いまの生活』』、晶文社
- 助川徳是 1984『野上 生子と大正期教養派』、桜楓社
- 鈴木幹子 2000「大正・昭和初期における女性文化としての稽古事」、青木保他編『近代日本文化論 8 女の文化』、岩波書店
- 鈴木貞美 1992「モダン・ガール、そして小説の中の彼女たち～“女性的なるもの”の変容」、山折哲雄編『日本における女性』、名著刊行会
- Suzuki, T. 1996 *Narrating the Self: fictions of Japanese Modernity*, Stanford Univ. Press. =2000 (大内和子・雲和子訳)『語られた自己～日本近代の私小説言説～』、岩波書店
- 高橋孝輝 2001『値段が語る、僕たちの昭和史』、主婦の友社
- 高道 基 1979「山室軍平と日本救世軍」、『文学』、vo. 47、岩波書店
- 武田京子 1972→1982a「主婦こそ解放された人間像」、上野千鶴子編『主婦論争を読むⅡ』、勁草書房
- 武田京子 1972→1982b「ふたたび主婦の解放をめぐる」、上野千鶴子編『主婦論争を読むⅡ』、勁草書房
- 竹田青嗣 1986→1990『陽水の快樂』、ちくま文庫
- 竹村民郎 1980『大正文化』、講談社現代新書
- 竹内 洋 1996「サラリーマンという社会的表徴」、井上俊他編『現代社会学 23 日本文化の社会学』、岩波書店

- 田間泰子 1996「少産化と家族政策」、井上俊他編『現代社会学 19 〈家族〉の社会学』、岩波書店
- 玉城 肇 1974「婦人解放論の系譜」、『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- 田村毅・塩川徹也他編 1995『フランス文学史』、東京大学出版会
- 田邊玲子 1990「純潔の絶対主義」、萩野美穂他『制度としての〈女〉』、平凡社
- 田中義久 1971→1980「私生活主義批判」、宮島喬編『現代のエスプリ 153 現代と疎外 その社会心理』、至文堂
- 谷崎潤一郎 1943→1955『細雪（上・中・下）』、新潮文庫
- 田崎宣義 1990「女性労働の諸類型」、女性史総合研究会編『日本女性生活史 第4巻 近代』、東京大学出版会
- 寺出浩司 1994『生活文化論への招待』、弘文堂
- 暉峻康隆 1989『日本人の愛と性』、岩波新書
- Theodorson, G.A. 1965 “ROMANTICISM AND MOTIVATION TO MARRY IN THE UNITED STATES, SINGAPORE, BURMA, AND INDIA” , *Social Forces*, 44.
- 飛田良文 2002『明治生まれの日本語』、淡交社
- TOKYO NEWS MOOK 1994『テレビドラマ全史』、東京ニュース通信社
- 辻村 明 1981『戦後日本の大衆心理』、東京大学出版会
- 辻野 功 1979「キリスト教社会主義者安部磯雄」、『文学』、vo. 47、岩波書店
- 筒井清忠 1995『日本型『教養』の運命～歴史社会学的考察』、岩波書店
- 筒井清忠編 1997『歴史社会学のフロンティア』、人文書院
- トルストイ 1873～77=1964ab（原卓也訳）『世界の文学 アンナ・カレニナ』Ⅰ・Ⅱ、中央公論社
- 上田賢一 2003『上海ブギウギ 1945 服部良一の冒険』、音楽之友社
- 植田康夫 1982「女性雑誌がみたモダニズム」、南博編『日本モダニズムの研究』、ブレーン出版
- 植田康夫 1986「ジャーナリズムにおける婦人雑誌の地位と役割」、南博編『近代庶民生活誌第九巻 解説・総説』、三一書房
- 上村くにこ 2002「『主婦』の誕生」、中公新書ラクレ編集部編『夫と妻のための新・専業主婦論争』、中公新書
- 上野千鶴子 1982「主婦論争を解説する」、上野編『主婦論争を読むⅠ・Ⅱ』、勁草書房
- 上野千鶴子 1987→1992『増補 〈私〉探しゲーム 欲望私民社会論』、ちくま学芸文庫
- 上野千鶴子 1990「恋愛テクノロジー」、上野編『ニュー・フェミニズム・レビュー(1) 恋愛テクノロジー』、学陽書房
- 上野千鶴子 1994『近代家族の成立と終焉』、岩波書店
- 上野千鶴子 1995a「『恋愛結婚』の誕生」、『東京大学公開講座 60 結婚』、東京大学出版会
- 上野千鶴子 1995b「『労働』概念のジェンダー化」、脇田晴子・S.B. ハンレー編『ジェンダーの日本史 下』、東京大学出版会

- 上野千鶴子 1996 『『家族』の世紀』、井上俊他編『現代社会学 19 〈家族〉の社会学』、岩波書店
- 上野 葉 1912→1991 『『人形の家』より女性問題へ』、堀場清子編『『青踏』女性解放論集』、岩波文庫
- 上島敏昭 1986 「神前結婚式の成立」、南博編『近代庶民生活誌第九巻 解説・総説』、三一書房
- 鶴飼正樹・永井良和・藤本憲一編 2000 『戦後日本の大衆文化』、昭和堂
- 潮見俊隆・阪本美代子 1976 「近代日本文学における家族」、福島正夫編『家族 政策と法 7 近代日本の家族観』、東京大学出版会
- Valency, M. 1958 *IN PRAISE OF LOVE: An Introduction to the Love-Poetry of the Renaissance*, Macmillan. =1995 (沓掛良彦・川端康雄訳) 『恋愛礼讃～中世・ルネサンスにおける愛の形』、法政大学出版会
- Velde, Van de. 1926 *Die Vollkommene Ehe: Eine Studie über Physiologie und Technik*, Benno Konegen. =1982 (安田一郎訳) 『完全なる結婚』、河出文庫
- ヴェール、ウルリケ 2000 「もう一つの『青鞥』」、奥田暁子編『女と男の時空 [日本女性史再考] ⑩近代 [下]』、藤原書店
- 和田芳恵編 1969 『現代日本記録全集 17 愛情の記録』、筑摩書房
- 若林幹夫 2007 『郊外の社会学～現代を生きる形～』、ちくま新書
- 渡辺洋三 1994 『日本社会と家族』、労働旬報社
- 度会好一 1997 『ヴィクトリア朝の性と結婚』、中公新書
- Weber, M. 1905→1920 *Die protestantische Ethik und der „Geist“ des Kapitalismus*, . =1979 (梶山力・大塚久男訳) 「プロテスタントイズムの倫理と資本主義の精神」、『世界の名著 61 ウェーバー』、中央公論社
- 柳父 章 1982 『翻訳語成立事情』、岩波新書
- 柳父 章 2001 『一語の辞典 愛』、三省堂
- 柳田国男 1930→2002 『明治大正史 世相篇 [新装版]』、講談社
- 山田昌弘 1994 『近代家族のゆくえ』、新曜社
- 山田昌弘 1996 『結婚の社会学 未婚化・晩婚化はつづくのか』、丸善ライブラリー
- 山極寿一 1994 『家族の起源～父性の登場～』、東京大学出版会
- 山川菊栄 1943→1983 『武家の女性』、岩波文庫
- 山本直英 1997 『セクシュアル・ライツ 人類最後の人権』、明石書店
- 山中永之佑 1988 『日本近代国家の形成と『家』制度』、日本評論社
- 山下悦子 1996 「戦後社会と女性～職場と家族の変容」、山下編『女と男の時空～日本女性史再考 VI～現代』、藤原書店
- 山手 茂 1974 「マイホーム主義の形成と展開」、『講座家族 8 家族観の系譜』、弘文堂
- 山崎正和 1977→1985 『おんりい・いえすたでい' 60s』、文春文庫
- 湯沢雍彦 1977 「戦後家族変動の統計的考察」、福島正夫編『家族 政策と法 3』、東京大学出版

会

湯沢雍彦 1995 『図説 家族問題の現在』、NHK ブックス

湯沢雍彦 2003 『データで読む家族問題』、NHK ブックス

湯沢雍彦 2005 『明治の結婚 明治の離婚～家庭内ジェンダーの原点～』、角川選書

湯沢雍彦・宮本みち子 2008 『新版 データで読む家族問題』、NHK ブックス

米原 謙 2003 『徳富蘇峰～日本ナショナリズムの軌跡～』、中公新書

米村千代 1999 『『家』の存続戦略～歴史社会学的考察～』、勁草書房

吉見俊哉 1994 『メディア時代の文化社会学』、新曜社

吉澤夏子 2000 「性のダブル・スタンダードをめぐる葛藤～『平凡』における〈若者〉のセクシ
ュアリティ」、青木保他編『近代日本文化論 8 女の文化』、岩波書店

全協・出版科学研究所 1980年～『出版指標年報』

論文の内容の要旨

論文題目 『主婦の友』にみる日本型恋愛結婚イデオロギーの固有性と変容

氏 名 大塚明子

I. 序論

(1)問題設定：日本型恋愛結婚イデオロギーの固有性と変容

恋愛結婚イデオロギー、すなわち「愛・性・結婚」の三位一体の要請は、「男は外／女は内」という性別役割分業イデオロギーと並び、近代家族を支える両輪となってきた。第2次フェミニズム以降、後者には根底的な批判が加えられてきたが、「愛」を基盤とする結婚という理想はさらに強化されてきたように思われる。

1990年代以降、欧米の社会史や歴史社会学を導入した論者たちは、近代的な性別役割分業と家族員の情緒的結合を重視する「家庭」が大正期の新中間層で実現されたことに注目し、日本型近代家族の戦前と戦後における連続性を強調する。しかし、その夫婦の「愛」や性のあり方については、まだ十分に考察されていないのではないかと。

本稿は、(1) 当人同士の自由な意志決定と(2) 男女の相互的な愛着に基づき、(3) この2要件を満たす結婚のみが唯一正統的とされる、という3要件を満たす近代恋愛結婚イデオロギーを上位概念とし、欧米型のロマンティック・ラブ・イデオロギー、及びそのカウンターパートとしての日本型を下位類型と設定し、次の2つの問いに答えることを目指す。

1. 欧米のロマンティック・ラブ・イデオロギーと比較した場合、日本型近代恋愛結婚イデオロギーの固有性はどのようなものか?
2. それは時代とともにどのように変容してきたか? 焦点の1つは、近年の性別役割分業に関する指摘と同様、戦前と戦後が根底的に連続するの、それとも一定の断絶があるのかという点だ。

大衆雑誌『主婦の友』の言説分析を主な方法とするが、その際「愛」や結婚といった諸価

値を常に他との関連で、かつ可能な限り全社会的な布置の中で考察し、またマクロな大枠としての抽象的・一般的な価値／マイクロな行動に関わる具体的な規範という 2 水準を区別する。この分析枠組に沿って、2つの問いをより具体的な小問に分割する。

構成要素たる「愛・性・結婚」の3者の内的連関はどうなっているか。

→入口としての結婚方法（特に戦前の日本型近代家族は『不自由婚』の上に立っていたのか?）

これと関連して、未婚男女の出会いと交際を安定的に支える社会装置があるか。

→出口としての離婚（愛の喪失を理由とした離婚を正当化するか?）

→性と愛の結びつきは外形的・消極的か、それとも内在的・積極的か?

当該社会の文化的伝統がどのように継承されているか。

当該社会や時代の至上価値によりどのように規定されているか。

性別役割分業イデオロギーとの関連や比重はどうか。特に伴侶性と扶養者／主婦・母という役割が葛藤した場合、どちらが優先されるか。

「恋愛」「愛」という価値を行動化するためのマイクロで具体的な諸規範はどうなっているか。特に婚前／今後の愛情表現の作法がどのように与えられているか。また「男／女らしさ」というジェンダー規範とどう関連しているか。

(2) 比較軸としての欧米のロマンティック・ラブ・イデオロギー

Luhmann(1986) と Lystra(1989) の議論を整理し、ロマンティック・ラブを「神秘的な牽引力」を起点とする「間人格的相互浸透」の過程として定義する。そこでは情熱 (passion) と友愛 (companionship) という2つの要素が、「真の自己」に触れてくる「ただ1人の人 (one and only)」という個別志向性において統合され、それが結婚との結合＝ロマンティック・ラブ・イデオロギーを可能にする。米国ではロマンティック・ラブの理念が両性に等しく内面化され、男性の扶養者 (provider) と伴侶 (companion) という2重役割では後者が優先された (Lystra)。

性の位置づけには一定の断絶がある。ヴィクトリア期の「愛・性・結婚」の三位一体は、性交渉の婚姻内への限定だけを意味していた。これに対し、20世紀型ロマンティック・ラブ・イデオロギーは、セックスを愛の最高の実現とし、両者を内在的・積極的に結びつける。

(3) 『主婦の友』の言説分析の方法

1917 (大正6) 年創刊の『主婦の友』は、高度成長期に至るまで多大の影響力をもったメディアである。セグメント化された婦人雑誌は、送り手と受け手の距離が近く、価値や規範が相当程度共有されると想定される。また同誌の部数的な全盛期は、日本近代史上で読者の同質性をもっとも高い。だが、1970年代以降、日本の女性の生き方が多様化に向かう中、婦人四誌の発行部数は減少に転じる。そこで対象期間は、一定の社会的な代表性を期待する同年までとする。

資料としては、全目次から広い意味で近代恋愛結婚イデオロギーと関連するタイトル計 5492 本をリスト化したうえで、鍵的と判断した計 1602 本を対象とする（抽出率 29.2%）。分析には MAXqda を用いた。

II・III. 戦前前期～1940年代：〈国家社会〉と精神主義的・普遍志向的な action としての「愛」

この時期の『主婦の友』は、男女は「異質だが平等」だとするリベラル派の良妻賢母主義に加えて、国家主義的イデオロギーを根幹とする。〈国家社会〉という至上価値は、戦時体制下には「皇国」として強化され、敗戦後も「民主日本」「世界平和」に置き換えて維持された。相即して近代恋愛結婚イデオロギーを構成する「愛・性・結婚」のうち、〈国家社会〉を支える「家庭」を最上位におき、離婚を原則否定する。夫婦の「愛」の理想は、妻が「高潔な人格」をもつ夫を「敬」し、互いに「理解」し、精神的な「同化」に至るものとして描かれた。

だが、誌面総体では理想主義的な「愛」と現実主義的な「和合」、換言すれば価値と規範の間に乖離がある。後者の記事群では、リベラルな建前と裏腹に夫優位性が全肯定され、「和合」とは夫が妻に満足することだった。性的充足は主に身体的な問題として捉えられ、「愛」の理念との結びつきは稀薄だった。ただし、過度の「享楽」を警戒する一方、やはり夫優位的な視点から「和合」の基盤として強調するという両義性がみられた。

欧米のロマンティック・ラブ・イデオロギーと比較した場合、同誌の固有性は互いに関連する3点に整理される。

1. 官能的で非合理的な passion を起点とするロマンティック・ラブに対し、精神主義的で意志的な action としての「愛」の理想。これと相即して、従来の「不自由婚」を批判しつつも、不安定な情熱たる「恋愛」には否定的で、家庭的グループ交際を最善と推奨した。夫の不貞にも、妻は自らの「人格」を向上させ「愛」を捧げ続けるべしと説く。「愛」の理念が〈国家社会〉という至上価値に整合するよう構築され、喪失自体があるはずないものとされた。

2. 欧米の伝統と対照的に、「ただ1人の人」という個別志向性の欠落。A. 理想主義的な記事群では普遍志向的な「高潔な人格」が掲げられ、B. 「和合の秘訣」ではどんな男女でも大抵「和合」できると説かれた。

3. 「間人格的相互浸透」としてのロマンティック・ラブと異なり、男性の扶養者役割が明確に優先され、夫婦間の親密なコミュニケーションという要請が組み込まれないこと。「同化」という理想や「親子の比喻」の根強さからも、以心伝心的な人間関係を理想とする文化的伝統が根底にあると考えられる。

日本型近代家族の定着期といえる昭和十年代から戦後期にかけては、「夫からの緩和」という枠内での平等化が進展するが、大きくみれば大正期からの連続性が強い。

IV. 1950～60年代：「幸福」と官能的な passion としての性愛

1950（昭和25）年前後から、〈国家社会〉から「幸福」へという至上価値の転換が始まる。相即して「愛」が最上位に浮上し、その喪失を理由とした離婚が原則肯定される。波風の無い結婚生活においても内的な「愛」の存在／不在が問われ、「内面性の探索」が始まる。また理想（愛）と現実（和合）の二重性が後退し、夫婦の対等化は「妻からの要求」というべき新段階を迎えた。こうした中で前項1.の固有性は失われていく。

1' . 官能的で非合理的な passion を起点とするロマンティック・ラブと似て、「愛」の理念は性愛の色彩を濃くしていく。「セックスの時代」が本格化し、積極的な「愛→性」説が主流化。20世紀型ロマンティック・ラブ・イデオロギーの浸透といえよう。

これに対し、他の2つの特質は基本的に引き継がれた。

2. 個別志向性の希薄さ。「恋愛」「愛」を深く考察した知識人も、それらをもつば性的・官能的な情熱としてのみ捉え、その究極的な虚しさを強調する。その底流には「色」や「無常」といった文化的伝統が伺われる。

3. 夫婦間の親密なコミュニケーションという要請の欠落。扶養者役割の優先は揺らぐが、「恋愛」「愛」の理念と「男らしさ」のイメージとは、マクロな価値／ミクロな規範のいずれの水準でも十分に統合されなかった。

妻たちは「愛に生きる女」という新しいアイデンティティを追求し、「よろめき」の告白手記が氾濫する。だが、それは「女の哀しさ」という定型句に集約される根本的なジレンマに帰着せざるをえない。

1960年代末には、「愛に生きる女」でも主婦・妻・母役割でもない第3の方向性、個別的な〈私〉の「生きがい」が模索され始めた。しかし、男女共同参画型社会の方向性を打ち出した第3次主婦論争と違い、中断再就職の推奨という良妻賢母主義の枠内にとどまった。

終章. 今後の課題

本稿の方法に内在する限界として、男性の視線の稀薄さと、1970（昭和45）年までという時代的な限定がある。今後は他の資料で補足しつつ、日本型近代恋愛イデオロギーの固有性と変容という問いにさらに迫っていきたい。